

指定管理者制度導入施設の将来ビジョン

施設名	大分農業文化公園及び大分県都市農村交流研修館(愛称:るるパーク)
所在地	杵築市山香町大字日指1番地
県の所管部局(課・室)	農林水産部 地域農業振興課
設置年月日	平成13年4月21日(設置から23年)※令和6年4月1日現在
設置目的	(大分農業文化公園) 豊かな自然と親しみながら、農業・農村の文化等に関し学習する機会を提供することにより、農業・農村及び自然環境に対する県民の理解を深めるとともに、新しい農業・農村づくりに資する。 (大分県都市農村交流研修館) 都市と農村との交流の促進を図るとともに、農村女性の能力の開発及びネットワークの形成に資する。
指定管理期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

【検討結果】

施設の今後のあり方

存続 (利活用)	存続 (整理統合)	廃止
理由	①子育て世代中心に多くの県民に利用されている 平成13年のオープン以来、延べ638万人が利用(過去5年間平均:約30万人) ②79%が存続を希望(R2マーケットニーズ調査) (補足) (1)農業、農村の文化等を学習する施設、都市と農村との交流を図る施設としてオープンしたが、近年の利用者アンケートやマーケットニーズ調査によると、自然観察、健康増進、イベント参加等へのニーズが高い (2)外部有識者検討委員会も通じて、令和3年度に見直し方針(利用者ニーズに沿ったコンセプトや、取組)を決定 新愛称:るるパーク(令和4年度～) 新コンセプト:自然の中で憩い、遊び、健康になり、学べる。楽しさ満載の公園(令和4年度～) ※(1)の新規ニーズに応える形で、(2)の新コンセプトに沿った運営を実施することで更に幅広い来園者の増加が見込まれる	
管理方法の検討(存続の場合)	<u>以下により、今後も「指定管理者制度」を継続</u> ①広大な敷地面積を有しており、園内の草刈り、樹木植栽整備をはじめ、<u>直営では施設管理が難しい</u> ②四季ごとのイベント開催や収穫体験など、<u>民間のノウハウを活用していくメリット、必要性が大きい</u> ※公募の際、現指定管理者のみの応募が3期続いているため、競争性や独自性を担保するためにも、公募期間や条件といった公募手法の工夫をより一層行っていく必要がある (参考) ・平成13年度～平成17年度 管理委託契約 ・平成18年度～指定管理者制度 ・「研修館」は、「農業文化公園」敷地内にあるため、より効率的・効果的な管理運営を図る目的で、2施設を一体的に管理	

ビジョンの設定期間

ビジョンの設定期間	令和3年度～令和12年度
次回策定	令和12年度
中間見直し	令和6年度
次回指定管理者公募予定	令和7年度

存続の場合

1. 目指すべき施設像及び利用者像等

施設像	○コンセプト:自然の中で憩い、遊び、健康になり、学べる。楽しさ満載の公園 ①ミッション:県民等に永らく愛され親しまれる公園 ・新たな愛称「るるパーク」の周知 ②ビジョン:四季折々の自然体験や遊びを通じて喜びを感じられる場所 ・四季折々の花が楽しめる園内植栽の整備 ③バリュー:「楽しめる」「くつろげる」「遊べる」「健康になれる」「学べる」 ・アウトドア思考の高まりへの対応 ・子ども向け施設の充実、アクセスしやすさの向上(近距離化、集約化) ・来園者が食を楽しめる取組の充実 ・健康づくりのためのイベントの実施や園内の整備 ・新たな集客イベントの実施 ・自然観察及びアウトドア等に関する講座の実施・充実 ・体験型イベントの充実 ・日よけができる施設や植栽の充実 ・SNS映えするスポットの整備 ・キャッシュレス決済導入の周知
利用者像	①ファミリー層 →入園者の中心、広場や大型遊具等の利用、土日祝日の利用が多い 【参考】利用者アンケート(R5実施) 50代:21.8%、40代:22.1%、30代:20.9%、家族利用:58.7% ②シニア層 →四季の花イベント等の利用、ウォーキング等健康ニーズの高まり、平日利用が多い 【参考】利用者アンケート(R5実施) 60代以上21.8% ③若年層 →SNS映えスポット利用や、アウトドアイベントへの関心が高い 【参考】利用者アンケート(R5実施) 10～20代:12.1%、友人カップル利用:20.3% ④団体 →企業の福利厚生利用、学校・保育園・福祉施設等の遠足利用、観光ツアー客の立ち寄り利用 【参考】利用者アンケート(R5実施) 会社・グループ等:9.9%

定量的 目標達成指標	①	年間利用者数	ア 大分農業文化公園 令和3年度 310,000人／年 令和4年度 320,000人／年 令和5年度～令和7年度 330,000人／年 令和8年度～令和12年度 350,000人／年 イ 大分県都市農村交流研修館 令和3年度 30,500人／年 令和4年度 31,000人／年 令和5年度～令和12年度 31,500人／年
	②	利用者満足度	ア 大分農業文化公園 令和3年度 4.0 令和4年度 4.1 令和5年度～令和7年度 4.2 令和8年度～令和12年度 4.5 イ 大分県都市農村交流研修館 令和3年度～令和7年度 4.7 令和8年度～令和12年度 4.8
定性的 目標達成指標 ※外部有識者 検討委員会 でR3.5月に決定 予定	①	四季折々の花が楽しめる植栽の充実	
	②	アウトドア志向の高まりへの対応	
	③	子ども向け施設の充実	
	④	食を楽しめる取組の充実	
	⑤	自然観察及びアウトドア等に関する講座の実施・充実	

2. 目指すべき像を達成するための課題とその解決策、実施方法・実施時期（解決への優先順に記載）

課題1 人口減少・少子高齢化に関する課題	
(1)人口減少・少子高齢化による利用者減 利用者アンケート(R5実施)によると、入園者の年代は40代が22.1%で最も多く、次いで50代が21.8%、家族割合は58.7%と、ファミリー層が利用者の中心。現状では人口減少・少子高齢化により、大幅な利用者の減少が予想される。	
解決策	①若者やシニアなど幅広い年齢層の利用増加を図る仕組みづくり ②公園を訪れたことがない者や幅広い地域から来園者を呼び込むための周知活動等の強化
実施方法・実施時期	①・四季ごとに花や紅葉が楽しめる見所づくりの推進（通年） ・SNS映えするスポットの整備（通年） ・キャンプ等アウトドア需要対応強化（通年） ・健康増進のためのウォーキングコースの整備や健康イベントの開催等（通年） ②・大分市から北九州市までの東九州自動車道沿線地域に対して集中的な周知宣伝（通年） ・近隣の観光地と連携した誘客、国内及び海外からのツアーへの売り込み（通年） ・農業に限定されたイメージから離れた、新たなコンセプトに基づく名称変更 （新愛称：るるパーク（令和4年度～））

（参考）	令和5年度(2023年度)	令和12年度(2030年度)	令和27年度(2045年度)
予測利用者数(人)	391,983	303,484	260,130
直近年度比		77.42%	66.36%

課題2	施設管理に関する課題（農業文化公園）
(1)施設の老朽化 ・開園後23年が経過し、大型遊具やメイン施設(事務室、物産館、花昆虫館、レストラン館、研修館)等の改修が必要となっている (2)利用者の少ない施設及びエリアの整理 ・レストラン館(市所有施設)は休止中で、花昆虫館、風のリズム広場等は利用者が少ない (3)設置目的と利用実態とのずれ ・利用者の多くは農業、農村の文化等を学習する施設としてではなく、自然観察、健康増進、イベント参加等で利用	
解決策	①施設の計画的な補修とリニューアル 大型遊具やメイン施設の不良箇所の補修、利用者の少ない施設及びエリアのリニューアル ②新コンセプトに基づいた運営 新コンセプト：「自然の中で、憩い、遊び、健康になり、学べる。楽しさ満載の公園」
実施方法・実施時期	①計画的な施設の補修及び、キャンプ協会等と連携した施設利用を検討（補修は通年） ②新コンセプトに基づいた運営 ・ネモフィラ、コキア、ツバキ等、季節ごとの花のイベントを実施(通年) ・市町村等と連携し、農産物や地域の味を届ける催しやキッチンカーによるイベントを実施(通年) ・親子で自然体験やアウトドア技術を学べる講座や初心者向けのキャンプ講座を開催(令和5年度～) ・「おおいた歩得」のミッションの設定やウォーキング大会の開催、マラソン大会の誘致を行った。 (歩得→通年。ウォーキング、マラソン→令和5年度～)
課題3	施設管理に関する課題（都市農村交流研修館）
(1)ニーズへの対応 ・時代の変化に伴い社会的関心が高くなっている内容への対応ができていない (2)稼働率の低さ ・農村女性の高齢化などから研修館へのニーズが減少し、近年の目標達成率(R5)は46.1%と低迷している	
解決策	①ニーズ調査により、どのような研修が求められているのかを把握し、内容のリニューアルを行う ②企業や団体への働きかけなどにより、貸館利用の促進を図る ③研修館を活用した行事を開催し、利用促進を図る
実施方法・実施時期	①ニーズ調査結果を踏まえ、アウトドア教室やシニア層を対象とした園芸講座等を実施する（通年） 【参考】マーケットニーズ調査（R2） 受講してみたい研修：アウトドア関係 30.7%、 園芸講座：25.9%（60代以上 49.2%） ②東九州自動車道沿線地域に対して集中的に周知宣伝を行い、県北地域と北九州市については、個別に企業訪問を行い、周知を図るとともに、農業体験研修などでの活用を働きかける（通年） ③梅雨時期や酷暑の時期等、屋内での講座や体験教室などを開催する。(通年)

課題4	新たなニーズへの対応に関する課題
	(1)新たなニーズへの対応強化 ・現状は、体験や研修については、収穫体験など農業関係がメイン ・アウトドアや健康ニーズの高まりに対応できていない 【参考】マーケットニーズ調査(R2) 公園に求めるもの:アウトドア環境の充実 25. 8%、運動できる環境:22. 6%
解決策	①自然体験の充実 キャンプ場の拡充、アウトドア教室、天体観測会 等 ②健康ニーズへの対応 ウォーキング、サイクリングコースの周知、マラソン大会の誘致 等
実施方法・実施時期	①グラウンドを改修し、フリーサイトキャンプ場を新たに開設（令和3年度） キャンプ協会等と連携し、初心者を対象にしたキャンプ講座や星空教室等の開催（令和3年度～） ②ダム湖を囲むウォーキング、サイクリングコースの周知、足こぎボートや自転車の拡充 （令和3年度～令和7年度） 健康アプリ「おおいた歩得」（ユーザー数 約8万人）との連携（令和2年度～） ウォーキング、マラソン大会の誘致(令和5年度～)
課題5	飲食や物販の充実に関する課題
	(1)施設での飲食、物販が不十分 ・開園当初は多くの箇所が多岐にわたる飲食の提供が行われていた ・採算が取れないことから、現状ではレストラン等は休止中で、食事を提供しているのは豊の国物産館内のカフェのみ ・イベント時等は、外部事業者により屋外テントやキッチンカーで県産食材料理等を提供 【参考】マーケットニーズ調査(R2実施) 公園に求めるもの:飲食の充実 42. 7%
解決策	①県産・園内産食材を利用したオリジナルメニューの強化 ②生産者や加工事業者との連携によるPRイベントの実施 ③宿泊者・デイキャンプへのバーベキュー等食材の提供
実施方法・実施時期	①園内カフェでは、大分県産食材を使ったカレーやそば等の食事の提供を行うとともに、園内で収穫した果物を使用したソフトクリーム等、オリジナルメニューを提供 ②地元自治体等と連携した大分の食文化を発信するマルシェなどの食のイベントを実施。 週末やイベント開催時期には、キッチンカーによる食事の提供も実施。（令和3年度～） ③キャンプ客に対し、地元量販店等と連携した、和牛など大分ブランド食材を提供（令和3年度～）